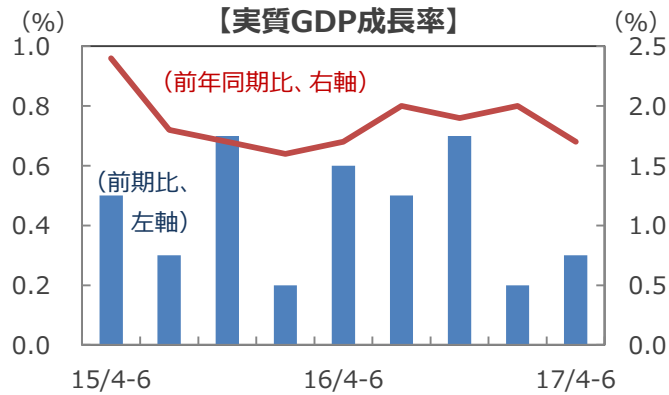


今日のトピック 英国経済と通貨の動向 (2017年8月)

英国景気と通貨ポンドは底堅い推移となる見込み

ポイント1 景気はやや減速

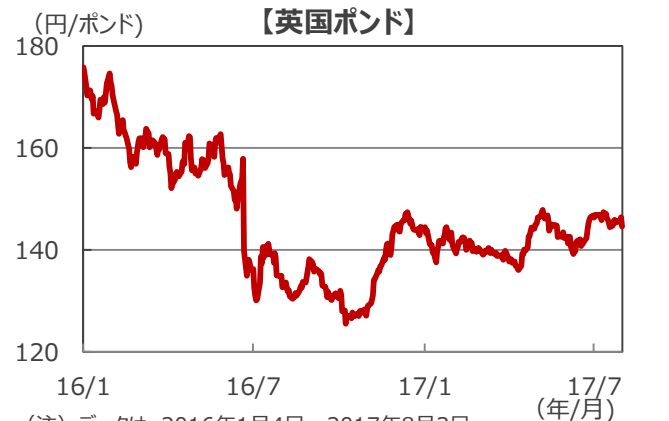
- 英国は昨年6月の国民投票でEUからの離脱 (Brexit) を選択した後も堅調な経済成長が続いていましたが、今年に入り減速感が見られます。
- 7月26日に発表された2017年4-6月期の実質GDP成長率は前期比+0.3%となりました。前期よりもやや高い伸びとはなったものの、前年同期比では減速しています。内訳を見ると、サービス業が前期から加速しプラス寄与となりましたが、鉱工業や建設業のマイナスが全体に影響しました。



(注) データは、2015年4-6月期～2017年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は現状維持

- イングランド銀行 (BOE、イギリスの中央銀行) は、3日の金融政策委員会で金融政策 (政策金利や量的緩和の規模) を据え置きました。
- 同日発表されたBOEの経済成長見通しでは、2018年の物価見通しが0.1%引き上げられ、2017年、2018年の実質GDP成長率が前年比+1.7%、同+1.6%へと引き下げられました。足元の経済指標の下振れが影響したと見られます。



(注) データは、2016年1月4日～2017年8月3日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 経済、通貨は底堅い動きが続く見込み

- 今後の英国経済は、ユーロ圏経済など世界景気の回復を背景とした外需の好調さや投資に支えられて、底堅い成長が続くと見込まれます。また、景気の拡大やこれまでのポンド安の影響から物価はやや高めで推移すると見られます。市場では年内の利上げを見込む向きも出てきており、こうした底堅い経済や利上げ観測により、ポンドは底堅く推移すると見込まれます。
- なお、英国とEUとの間ではBrexitの交渉が続いています。今後この交渉の行方次第では景気や通貨の動向にも影響があると考えられ、引き続き注目が必要です。

ここもチェック! 2017年8月2日 ユーロ圏経済と通貨の動向 (2017年8月)
2017年6月9日 英国の総選挙 (速報)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。